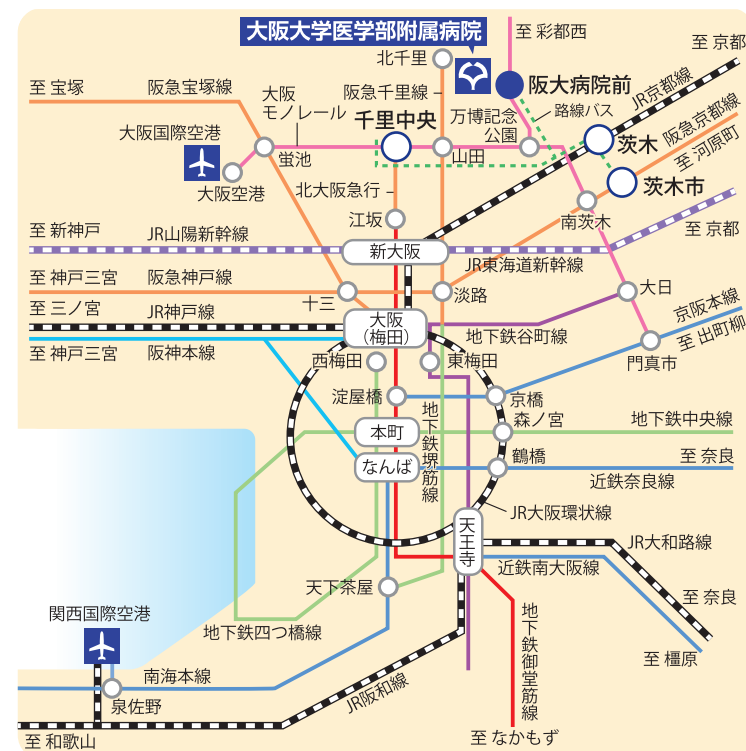


[交通アクセス]



- 大阪モノレール彩都線：『**阪大病院前**』下車
- JR東海道本線（京都線）：JR茨木駅から近鉄バス[阪大本部前行き]で『**阪大医学部病院前**』下車
- 阪急電鉄京都線：阪急茨木市駅から近鉄バス[阪大本部前行き]で『**阪大医学部病院前**』下車
- 地下鉄御堂筋線：北大阪急行千里中央駅から阪急バス[阪大本部前行き]で『**阪大医学部病院前**』下車



[阪大病院ニュース]

阪大病院ニュースをwebで公開しています。

阪大病院ニュース

検索

 大阪大学医学部附属病院

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号 TEL. 06-6879-5111 (代表)

阪大病院

検索

28-07



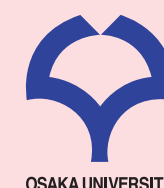
Osaka University Hospital Outline

大阪大学医学部附属病院 要覧



Live Locally, Grow Globally

2016



OSAKA UNIVERSITY



Contents [目次]	
理念・基本方針・患者さんの権利・患者さんの責務	02
高度で安全な医療、未来を拓く医療	03
病院長からのご挨拶	04
沿革	05
機構／職種別職員数／職員	07
資料	09
診療科別外来患者数／病棟フロア別入院患者数	
資料	11
臨床検査件数／手術件数／画像検査患者数／輸血検査件数／処方枚数／病理業務件数／リハビリテーション実施単位数／地域別入院患者数／治験件数／移植件数／院内がん登録件数／入院、外来抗がん剤調製件数／ドクターヘリ出動件数／分娩件数／血液浄化療法施行件数	
医療機関の承認・指定状況等	13
経理状況／未来医療の推進	14
構内建物配置図／階別配置図・病床数	15
トピックス（臨床研究中核病院認定／オンコロジーセンター棟オープン）	17
写真で見る大阪大学医学部附属病院	18

理 念

大阪大学医学部附属病院は、
良質な医療を提供すると共に、
医療人の育成と医療の発展に貢献する。

[医の先進性を志して145年]

1869（明治2）年大阪府が大福寺に仮病院・医学校を設立した際、緒方洪庵の嗣子緒方惟準、義弟郁蔵、養子拙斎らがこれに参加。この医学校は、後に幾多の変遷を経て現在の大阪大学医学部となった。
阪大病院の理念は緒方洪庵の思想を受け継いでいる。



緒方 洪庵

基本方針

- 患者本位の安心・安全な全人的医療の提供
- 高度先進医療・未来医療の開発・実践
- 社会・地域医療への貢献
- 豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

患者さんの権利

- 人として尊重された医療を受けることができます。
- 安全で質の高い医療を受けることができます。
- 充分な説明と情報提供を受けることができます。
- 自由な意思によって治療を選ぶことができます。
- 個人の情報は保護されています。

患者さんの責務

- 本院の規則を遵守し、迷惑行為は慎んでください。
- ご自身の健康状態について、できる限り正確にお話してください。
- 適切な治療方針を決めるために、ご自身の意思や意見を伝えてください。
- 治療方針をご理解のうえ、ご協力ください。
- ご加入の保険を正確に伝え、受けた医療に対する医療費をお支払いください。



●病院機能評価認定証（画像は2011年認定のもの）
2016年1月に（公財）日本医療機能評価機構から最新基準（3rdG:Ver.1.1）に認定されました。



●外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）認定書
2016年3月に（一財）日本医療教育財団から認証されました。



●ISO15189認定証
2015年9月に（公財）日本適合性認定協会から認定承認を受けました。



●倫理審査委員会認定証
2015年3月に厚生労働省から認定を受けました。



高度で安全な医療、未来を拓く医療

豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

- 超高齢化社会における課題を問題提起して解決できる人材の育成。
- 看護・医療技術領域の医療専門職の育成を図るとともに、職員の医療安全能力の向上に資するための実践的教育パッケージの開発を継続し活用する。



未来医療の開発・実践

- 未来医療開発部を軸に、臨床研究中核拠点としての臨床研究体制の充実を図る。
- 臨床研究に関する倫理指針（統合指針）、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」など臨床研究に関わる規制への対応

高度な医療の提供

- 病院長のリーダーシップのもと、院内の診療体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 地域におけるがん診療体制の一層の連携強化を図るため、オンコロジーセンター棟を運用し、がん診療の機能を集約化する。
- 国及び地方公共団体等との連携強化
- 高度機能病院として必要な診療環境を確保するため、施設の整備・改修を図るとともに、医療機器の更新・充実を図る。
- 患者サービスに資する体制の機能を強化し、患者の立場に立った安心・安全な医療の提供を推進する。
- 国内実施例の約4割を占める「脳死臓器移植手術」等の高度・先進的な医療を、積極的に展開する。

地域医療機関とのネットワーク

- 各センター等による地域医療への貢献を図る。

診療と教育のグローバル化

- 国際医療センターにおける外国人患者の診療体制並びに外国人医療従事者等の研修受入れ体制（インバウンド）と、本院を中心に国内で開発された医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術などのグローバル展開体制（アウトバウンド）、国際医療に関わる課題や院内教職員の教育（国際医療研究・教育）を積極的に推進し整備する。

病院運営のための基盤強化

- 病院長のリーダーシップのもと、運営体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 防災対策及び災害医療に係る検討を行い、院内外の連携体制の強化を図る。

病院長からのご挨拶

大阪大学医学部附属病院

病院長 野口 眞三郎



阪大病院は、個々の診療科が日本トップレベルの診療を実施するのみならず、他の大学附属病院には類を見ないほど緊密な診療科間の連携のもと、「最後の砦」として高度で安全な医療を提供し高い評価を得ています。今後も更に診療科間、及び、多職種間（医師とメディカルスタッフ）の連携の強化を図り、患者さんを中心としたチーム医療を推進し、「最後の砦」として一層の進化を遂げるよう努力します。また、今後予想される急激な社会・医療環境の変化に適応し、尚かつ、高度で安全な医療を継続的に提供し続けるためには、効率性にも十分配慮した医療を実践する必要がありますと考えています。

未来を拓く先進医療の開発も本院の重要な使命の一つです。長年に渡る先進医療開発のための取り組みが評価され、本院は、平成27年8月に臨床研究中核病院の認定を受けました。基礎研究の成果をいち早くトランスレーショナルリサーチから臨床試験へ導出し実用化を図る基盤は、本院が全国でもトップレベルであります。臨床研究中核病院としてのアドバンテージを最大限に活用し、かつ、製薬企業との連携を更に強化して日本の臨床試験を先導したいと考えております。そして、願わくは、近い将来、一旦は大阪を去った製薬企業の本社が道修町に復帰し、大阪の復活の起爆剤になればと切に願っています。

また、本院の将来を担うのみならず日本全国で活躍し得る、優秀で患者から信頼される医療人（医師、看護師、薬剤師、医療技術者等）の育成にも尚一層前向きに取り組めます。さらに、病院事務職員とも常に情報共有・意思疎通を図り、健全な病院運営を図ります。

本院に勤務する多くの医師は、過酷な労働条件にも関わらず全力で診療、教育、研究に日夜取り組んでいます。医師が大学で勤務する一番の理由は、高度医療の提供や先進医療の開発に取り組みたいとの向学心と向上心にあると思います。この医師として崇高なモチベーションに少しでも応えるべく、Academic Physician が満足して働ける（研究できる）環境整備にも尽力したいと考えています。

以上の大学病院としての使命を果たすべく職員一同、力を合わせて努力する所存です。

今後とも引き続き、皆様のご理解とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

1838(天保9)年	蘭学者緒方洪庵「適塾」開塾。
	
1869(明治2)年	新政府は、小松帯刀、後藤象二郎等の提唱により大阪府下大組内久宝寺町(現大阪市天王寺区上本町)に文部省直轄大坂病院(緒方一族主宰)を設置した。
1870(明治3)年	文部省は当該病院を大阪府に移管し、大阪府は府立病院及び医学所を設立した。
1871(明治4)年	再び文部省直轄となった。
1872(明治5)年	文部省の学制改革に伴い、医学所及び病院が廃止された。
1873(明治6)年	2月 大阪府は西本願寺掛所に大阪府病院を開設し、教授局を付設した。
1879(明治12)年	3月 北区常安町に病院を新築し、移転と同時に大阪公立病院と改称、別に教授局を設けた。
	
1880(明治13)年	3月 府立大阪病院と改称し、教授局を分離して、府立大阪医学校を設立した。
1888(明治21)年	1月 府立大阪病院を府立大阪医学校に包摂し、校名を大阪医学校と改称した。
1893(明治26)年	3月 大阪医学校産婆養成所が開設された。
1898(明治31)年	4月 大阪医学校附属看護婦養成所が設立された。
1903(明治36)年	10月 専門学校令により、大阪府立高等医学校と改称された。

1915(大正4)年	10月	府立大阪医科大学と改称した。
1919(大正8)年	11月	大学令により府立大阪医科大学を改組し、大阪医科大学となって病院もこれに準じた。
1924(大正13)年	10月	大阪医科大学病院を大阪医科大学附属医院と改称した。(大阪市北区堂島浜通)
		
1931(昭和6)年	5月	勅令第67号により大阪帝国大学が創設され、大阪医科大学を移管して医学部と改称された。
		

1939(昭和14)年	1月	東館が増築された。
1943(昭和18)年	4月	北区堂島浜通から福島区堂島浜通に地名変更。
1945(昭和20)年	6月	看護婦養成所を厚生女子部と改称した。
1947(昭和22)年	10月	政令第204号により大阪帝国大学は大阪大学に改められた。
1949(昭和24)年	5月	国立学校設置法の公布に従い新制大学に包括され、医学部附属医院の名称は、医学部附属医院に改められた。
1951(昭和26)年	4月	大阪大学医学部附属医院厚生女子部を大阪看護学校と改称した。
1952(昭和27)年	4月	大阪大学医学部附属診療エックス線技師学校及び大阪大学医学部附属助産婦学校が設置された。
1953(昭和28)年	8月	大阪大学歯学部附属医院の設置(昭和26年3月)に伴い、医学部附属医院の診療科から歯科が分離された。
1963(昭和38)年	4月	大阪大学看護学校を大阪大学医学部附属看護学校と改称した。
1964(昭和39)年	3月	本院改築第1期工事が完成した。
1965(昭和40)年	4月	大阪大学医学部附属衛生検査技師学校が設置された。

1966(昭和41)年	4月	大阪大学医学部附属診療エックス線技師学校に専攻科が設置された。
	12月	本院改築第2期工事が完成した。
1968(昭和43)年	3月	大阪大学医療技術短期大学部設置(昭和42年6月)後の学年進行に伴い衛生検査技師学校が廃止された。
	4月	大阪大学医学部附属病院分院が本院に統合された。
1969(昭和44)年	4月	大阪大学医療技術短期大学部設置後の学年進行に伴い看護学校及び診療エックス線技師学校が廃止された。
1970(昭和45)年	10月	本院改築第3期工事が完成した。
1971(昭和46)年	3月	給食厨房棟が完成した。
1973(昭和48)年	8月	本院改築第4期工事が完成した。
		

1989(平成元)年	3月	吹田市山田丘において病棟等の新築工事を着工した。
1993(平成5)年	9月	中之島キャンパス(大阪市福島区)から吹田キャンパスに移転したと同時に微生物病研究所附属病院を統合した。



1993(平成5)年	10月	大阪大学医療技術短期大学部を発展的に解消し、医学部保健学科が設置された。
1994(平成6)年	11月	特定機能病院に承認された。
1995(平成7)年	1月	1月17日午前5時46分阪神・淡路大震災発生、本院に多大の被害が生じた。
	3月	ボジトロン核医学診断システム棟が完成した。

1996(平成8)年	3月	大阪大学医療技術短期大学部が閉学された。
1997(平成9)年	3月	大阪大学医学部附属助産婦学校が閉校された。
	7月	心臓移植実施施設に認定された。
1998(平成10)年	4月	肺移植実施施設に認定された。
1999(平成11)年	2月	脾臓移植実施施設に認定された。
	12月	移植法施行後初の脳死心臓移植を実施した。
		小腸移植実施施設に認定された。
		病棟屋上にヘリポートが完成した。
2000(平成12)年	4月	診療科が22診療科から6大診療科に再編成された。
	5月	肝臓移植実施施設に認定された。
2001(平成13)年	1月	日本医療機能評価機構から認定を受けた。
2004(平成16)年	4月	国立大学法人法の公布に伴い、大阪大学は国立大学法人大阪大学に改められた。
2006(平成18)年	1月	日本医療機能評価機構からVer5.0の認定を受けた。
2008(平成20)年	1月	大阪府からの委託事業としてドクターヘリの運航を開始した。
		

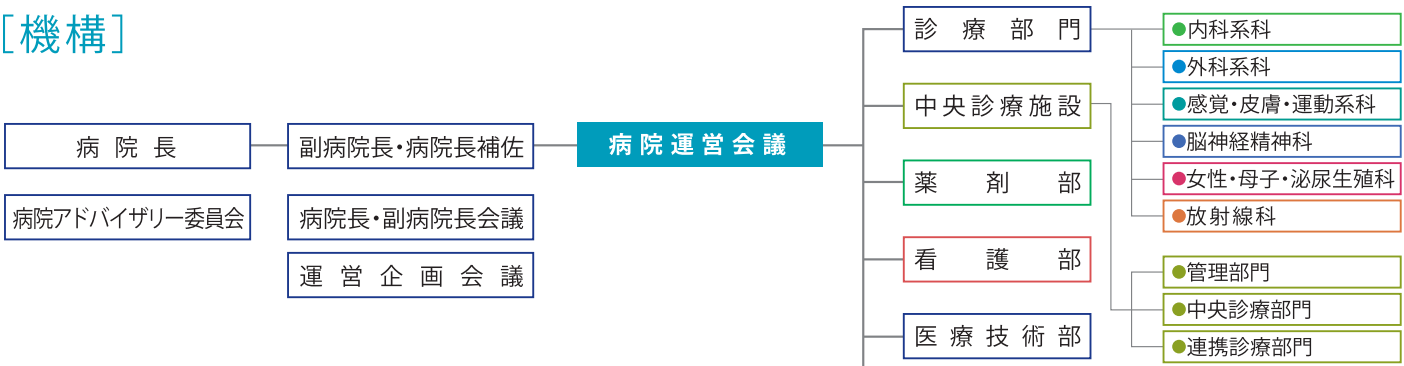
2009(平成21)年	4月	地域がん診療連携拠点病院に認定された。
2011(平成23)年	1月	日本医療機能評価機構からVer6.0の認定を受けた。
2012(平成24)年	6月	移植法改正後初の小児(10歳未満)脳死心臓移植を実施した。
2015(平成27)年	3月	質の高い倫理審査委員会設置病院として認定された。
	8月	臨床研究中核病院に認定された。
	9月	オンコロジーセンター棟が完成した。
		臨床検査のISO認定を受けた。
2016(平成28)年	1月	日本医療機能評価機構から3rdG:Ver.1.1の認定を受けた。
	3月	外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMP)に認証された。

機構／職種別職員数／職員

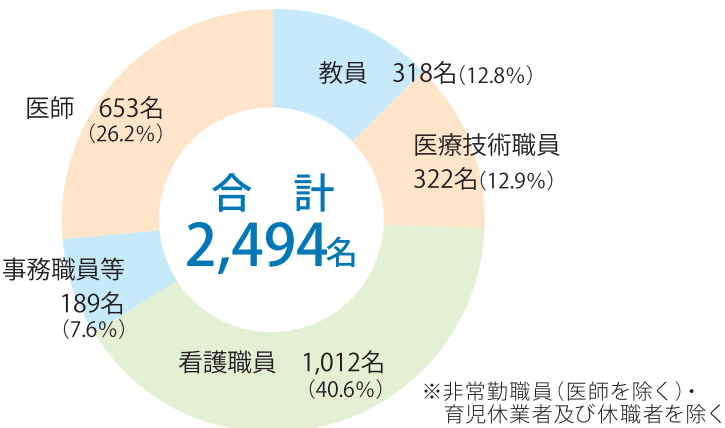
(2016年5月1日現在)

Organization Chart／Number of Staff／Faculty and Administrative Officers

[機構]



[職種別職員数]



[職員]

管理者

病院長	教授	野口 眞三郎	病院長補佐 (小児医療・女性支援担当)	教授	大 藺 恵 一
副病院長 (人事・医療安全担当)	教授	樂 木 宏 実	(研究・中央診療施設担当)	教授	小 川 和 彦
(財務・再開発担当)	教授	木 村 正	(教育・臨床研究中核病院担当)	教授	竹 原 徹 郎
(診療体制・がん診療担当)	教授	土 岐 祐一郎	(広報・中期計画・目標担当)	教授	野々村 祝 夫
(ホスピタリティ・アメニティ担当)	看護部長	越 村 利 恵	(外部評価・医療情報担当)	教授	松 村 泰 志
			(経営・組織改革担当)	事務部長	吉 原 正 啓

診療部門

内科系科	部門長(教授)	下 村 伊一郎	外科系科	部門長(教授)	奥 村 明之進
循環器内科	科長(教授)	坂 田 泰 史	心臓血管外科	科長(教授)	澤 芳 樹
腎臓内科	科長(教授)	猪 阪 善 隆	呼吸器外科	科長(教授)	奥 村 明之進
消化器内科	科長(教授)	竹 原 徹 郎	消化器外科(下部消化管、肝、胆)	科長(教授)	森 正 樹
内分泌・代謝内科	科長(教授)	下 村 伊一郎	消化器外科(上部消化管、膵)	科長(教授)	土 岐 祐一郎
呼吸器内科	科長(病院教授)	木 島 貴 志	乳腺・内分泌外科	科長(教授)	野 口 眞三郎
免疫・アレルギー内科	科長(教授)	熊ノ郷 淳	小児外科	科長(教授)	奥 山 宏 臣
血液・腫瘍内科	科長(教授)	金 倉 讓	病理診断科	科長(教授)	森 井 英 一
老年・高血圧内科	科長(教授)	樂 木 宏 実			
漢方医学科	科長(寄附講座准教授)	萩 原 圭 祐			
総合診療科	科長(教授)	樂 木 宏 実			

感覚・皮膚・運動系科	部門長(教授)	細 川 互
眼科	科長(教授)	西 田 幸 二
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長(教授)	猪 原 秀 典
整形外科	科長(教授)	吉 川 秀 樹
皮膚科	科長(教授)	片 山 一 朗
形成外科	科長(教授)	細 川 互
リハビリテーション科	科長(教授)	吉 川 秀 樹

脳神経精神科	部門長(教授)	藤 野 裕 士
神経内科・脳卒中科	科長(教授)	望 月 秀 樹
神経科・精神科	科長(教授)	池 田 学
脳神経外科	科長事務取扱(准教授)	岩 月 幸 一
麻酔科	科長(教授)	藤 野 裕 士

女性・母子・泌尿生殖科	部門長(教授)	木 村 正
産科	科長(教授)	木 村 正
婦人科	科長(教授)	木 村 正
小児科	科長(教授)	大 藺 恵 一
泌尿器科	科長(教授)	野々村 祝 夫

放射線科	部門長(教授)	畑 澤 順
放射線診断・IVR科	科長(教授)	富 山 憲 幸
放射線治療科	科長(教授)	小 川 和 彦
核医学診療科	科長(教授)	畑 澤 順

中央診療施設

[管理部門]

材料部	部長(病院教授)	高 階 雅 紀
病理部	部長(教授)	森 井 英 一
輸血部	部長(病院教授)	富 山 佳 昭
医療情報部	部長(教授)	松 村 泰 志
感染制御部	部長(教授)	朝 野 和 典
中央クオリティマネジメント部	部長(教授)	中 島 和 江
MEサービス部	部長(病院教授)	高 階 雅 紀
保健医療福祉ネットワーク部	部長(教授)	樂 木 宏 実
移植医療部	部長(教授)	奥 村 明之進
栄養マネジメント部	部長(教授)	下 村 伊一郎
サプライセンター	センター長(病院教授)	高 階 雅 紀
卒後教育開発センター	センター長(教授)	和 佐 勝 史
看護部キャリア開発センター	センター長	越 村 利 恵

[中央診療部門]

臨床検査部	部長(病院教授)	日 高 洋 人
手術部	部長(病院教授)	南 正 人
放射線部	部長(教授)	富 山 憲 幸
集中治療部	部長(教授)	藤 野 裕 士
リハビリテーション部	部長(教授)	吉 川 秀 樹
総合診療部	部長(教授)	樂 木 宏 実
血液浄化部	部長(教授)	猪 阪 善 隆
遺伝子診療部	部長(教授)	望 月 秀 樹
化学療法部	部長(病院教授)	水 木 満佐央
放射線治療部	部長(教授)	小 川 和 彦

総合周産期母子医療センター	センター長(教授)	木 村 正
高度救命救急センター	センター長(教授)	嶋 津 岳 士
内視鏡センター	センター長(教授)	土 岐 祐一郎
超音波検査センター	センター長(教授)	坂 田 泰 史

[連携診療部門]

脳卒中センター	センター長(教授)	望 月 秀 樹
前立腺センター	センター長(教授)	野々村 祝 夫
睡眠医療センター	センター長(教授)	望 月 秀 樹
疼痛医療センター	センター長(教授)	藤 野 裕 士
生殖医療センター	センター長(教授)	野々村 祝 夫
ハートセンター	センター長(教授)	坂 田 泰 史
小児医療センター	センター長(教授)	奥 山 宏 臣
オンコロジーセンター	センター長(教授)	土 岐 祐一郎
呼吸器センター	センター長(教授)	奥 村 明之進
てんかんセンター	センター長(教授)	大 藺 恵 一
消化器センター	センター長(教授)	森 正 樹
IVRセンター	センター長(講師)	大須賀 慶 悟
胎児診断治療センター	センター長(教授)	奥 山 宏 臣
難病医療推進センター	センター長(教授)	大 藺 恵 一

薬剤部	部長(病院教授)	三 輪 芳 弘
	副部長	門 脇 裕 子
	副部長	勝 浦 正 人

看護部	部長	越 村 利 恵
	副部長	萩 原 さがみ
	副部長	谷 浦 葉 子
	副部長	岩 崎 朋 之
	副部長	佃 順 子

医療技術部	部長	吉 田 靖
	副部長	前 田 育 宏
	副部長	藤 埜 浩 一
	副部長	橋 田 剛 一

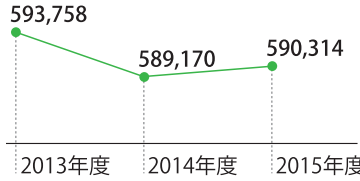
未来医療開発部	部長(教授)	西 田 幸 二
	副部長(教授)	朝 野 和 典
	副部長(教授)	松 村 泰 志
	副部長(寄附講座教授)	新 谷 歩
	センター長(教授)	竹 原 徹 郎
	センター長(寄附講座教授)	新 谷 歩
	センター長(教授)	中 田 研

事務部	部長	吉 原 正 啓
総務課	課長	藤 江 進
災害対策室	室長	藤 江 進
管理課	課長	安 岡 浩 憲
教育研究支援課	課長	岡 眞治郎
医事課	課長	西 川 憲 司
患者サービス推進室	室長	西 川 憲 司
再開発企画整備室	室長	安 岡 浩 憲

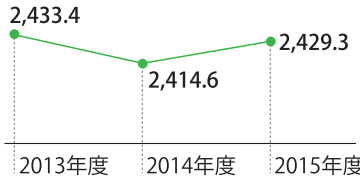
[診療科別外来患者数]

区 分	外来患者延数 (単位:人)	一日平均患者数 (単位:人)	平均通院日数 (単位:日)
■総合診療外来	5,187	21.3	9.0
■循環器内科	29,059	119.6	39.7
■腎臓内科	15,418	63.4	73.8
■消化器内科	45,006	185.2	50.2
■内分泌・代謝内科	43,450	178.8	98.5
■呼吸器内科	12,580	51.8	34.8
■免疫・アレルギー内科	18,716	77.0	31.4
■血液・腫瘍内科	19,004	78.2	56.2
■老年・高血圧内科	15,484	63.7	59.3
■心臓血管外科	11,050	45.5	28.9
■呼吸器外科	6,079	25.0	28.0
■消化器外科	29,418	121.1	33.9
■乳腺・内分泌外科	19,400	79.8	29.2
■小児外科	5,302	21.8	17.4
■眼科	51,851	213.4	13.7
■耳鼻咽喉科・頭頸部外科	28,530	117.4	18.1
■整形外科	31,873	131.2	19.7
■皮膚科	25,674	105.7	18.2
■形成外科	7,901	32.5	16.1
■神経内科・脳卒中科	20,144	82.9	28.4
■神経科・精神科	24,802	102.1	37.8
■脳神経外科	13,895	57.2	20.3
■麻酔科	12,380	50.9	44.2
■産科・婦人科	27,704	114.0	13.7
■小児科	24,042	98.9	28.9
■泌尿器科	23,059	94.9	32.9
■放射線診断科	17,950	73.9	97.0
■放射線治療科			
■核医学診療科			
■高度救命救急センター	791	3.3	9.1
■歯科	4,565	18.8	4.2
合 計	590,314	2,429.3	25.7

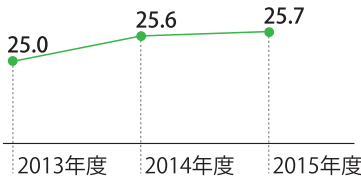
[外来患者延数の推移]
(単位:人)



[一日平均患者数の推移]
(単位:人)



[平均通院日数の推移]
(単位:日)



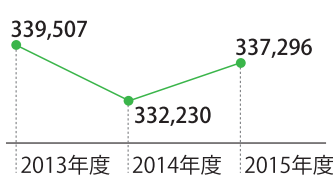
[病棟フロア別入院患者数]

西病棟						東病棟					
階	診療科	入院患者延数 (単位:人)	1日平均入院患者数 (単位:人)	平均在院日数 (単位:日)	病床稼働率 (単位:%)	階	診療科	入院患者延数 (単位:人)	1日平均入院患者数 (単位:人)	平均在院日数 (単位:日)	病床稼働率 (単位:%)
13	■脳神経精神科 (脳神経外科)	15,180	41.5	17.1	84.6	13	■感覚・皮膚・運動系科 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科)	17,212	47.0	19.6	92.2
12	■女性・母子・泌尿生殖科 (泌尿器科)	16,259	44.4	20.0	92.5	12	■内科系科 (内分泌・代謝内科/ 免疫・アレルギー内科)	15,103	41.3	20.9	77.9
11	■外科系科 (消化器外科)	16,686	45.6	21.8	91.2	11	■内科系科 (消化器内科)	16,706	45.6	14.6	91.3
10	■外科系科 (消化器外科/共通)	17,948	49.0	20.9	92.5	10	■内科系科 (血液・腫瘍内科)	15,459	42.2	53.7	81.2
9	■外科系科 (心臓血管外科)	17,864	48.8	16.6	99.6	9	■内科系科 (循環器内科)	16,670	45.5	13.9	91.1
8	■外科系科 (乳腺・内分泌外科) ■感覚・皮膚・運動系科 (皮膚科/形成外科)	15,093	41.2	12.2	82.5	8	■脳神経精神科 (神経内科・脳卒中科) ■内科系科 (老年・高血圧内科) ■感覚・皮膚・運動系科 (皮膚科)	15,921	43.5	20.9	87.0
7	■感覚・皮膚・運動系科 (眼科)	17,980	49.1	11.8	92.7	7	■内科系科(呼吸器内科) ■外科系科(呼吸器外科)	15,835	43.3	16.2	88.3
6	■外科系科 (小児外科/外科共通)	12,437	34.0	11.5	85.0	6	■女性・母子・泌尿生殖科 (小児科)	14,862	40.6	11.0	84.6
5	■感覚・皮膚・運動系科 (整形外科)	18,067	49.4	22.9	93.1	5	■女性・母子・泌尿生殖科 (産婦人科)	15,375	42.0	11.5	84.0
4	■集中治療部	1,145	3.1	17.6	82.2	4	■集中治療部	4,195	11.5	14.4	91.7
3	■総合周産期 母子医療センター	12,526	34.2	6.0	90.1	3	■内科系科 (腎臓内科/内科共通) ■放射線科 ■脳神経精神科 (麻酔科)	11,084	30.3	13.8	70.4
						2	■脳神経精神科 (神経科・精神科)	11,301	30.9	41.9	59.4
						1	■高度救命 救急センター	6,388	17.5	7.3	87.3

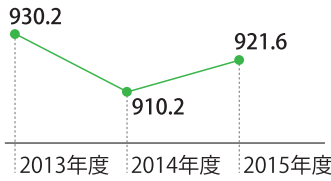
※フェーズⅠ病床 入院患者延数 124人

合 計	入院患者延数 (単位:人)	337,296	一日平均入院患者数 (単位:人)	921.6	平均在院日数 (単位:日)	15.6	病床稼働率 (単位:%)	85.6
-----	------------------	---------	---------------------	-------	------------------	------	-----------------	------

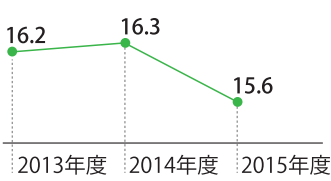
[入院患者延数の推移]
(単位:人)



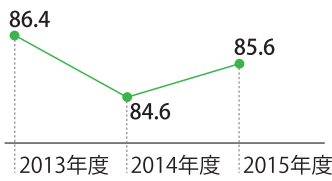
[一日平均入院患者数の推移]
(単位:人)



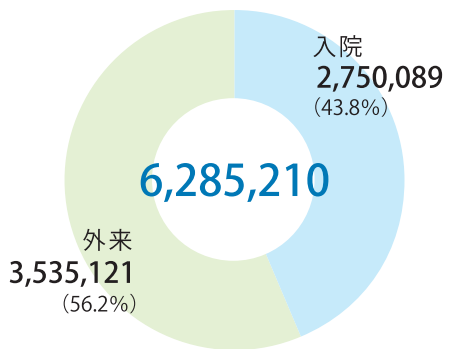
[平均在院日数の推移]
(単位:日)



[病床稼働率の推移]
(単位:%)



[臨床検査件数] (単位：件)



[手術件数] (単位：件)

■心臓血管外科	1,021
■呼吸器外科	286
■消化器外科	765
■乳腺・内分泌外科	391
■小児外科	466
■眼科	3,074
■耳鼻咽喉科・頭頸部外科	738
■整形外科	761
■皮膚科	206
■形成外科	508
■神経科・精神科	187
■脳神経外科	466
■麻酔科	57
■産科・婦人科	801
■泌尿器科	556
■高度救命救急センター	68
■骨髄採取(血液・腫瘍内科、小児科)	6
■その他(循環器内科、消化器内科、小児科)	52
合 計	10,409

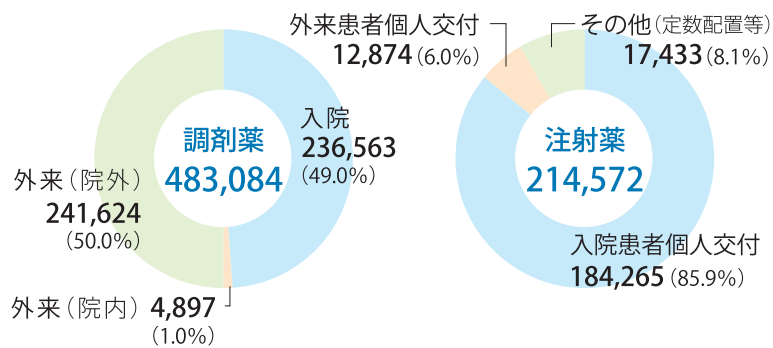
[画像検査患者数] (単位：人)

区 分	入院患者数	外来患者数	合 計
■一般撮影	62,563	53,981	116,544
■特殊検査	23,010	34,012	57,022
■核医学検査	1,308	4,287	5,595
合 計	86,881	92,280	179,161

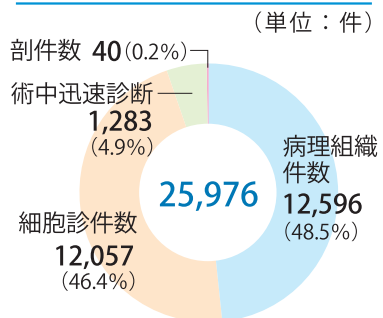
[輸血検査件数] (単位：件)

■血液検査 ABO,Rho(D)	19,633
■その他血液型	69
■不規則抗体検査 (スクリーニング検査)	15,155
■交差適合試験	14,132
■抗血小板抗体検査	294
■寒冷凝集反応	148
■直接クームス試験	316
■間接クームス試験	275
合 計	50,022

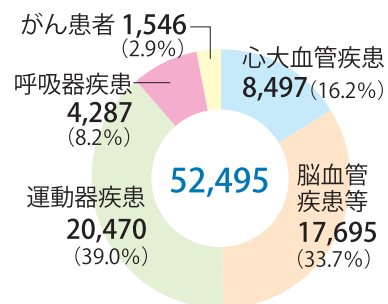
[処方枚数] (単位：枚)



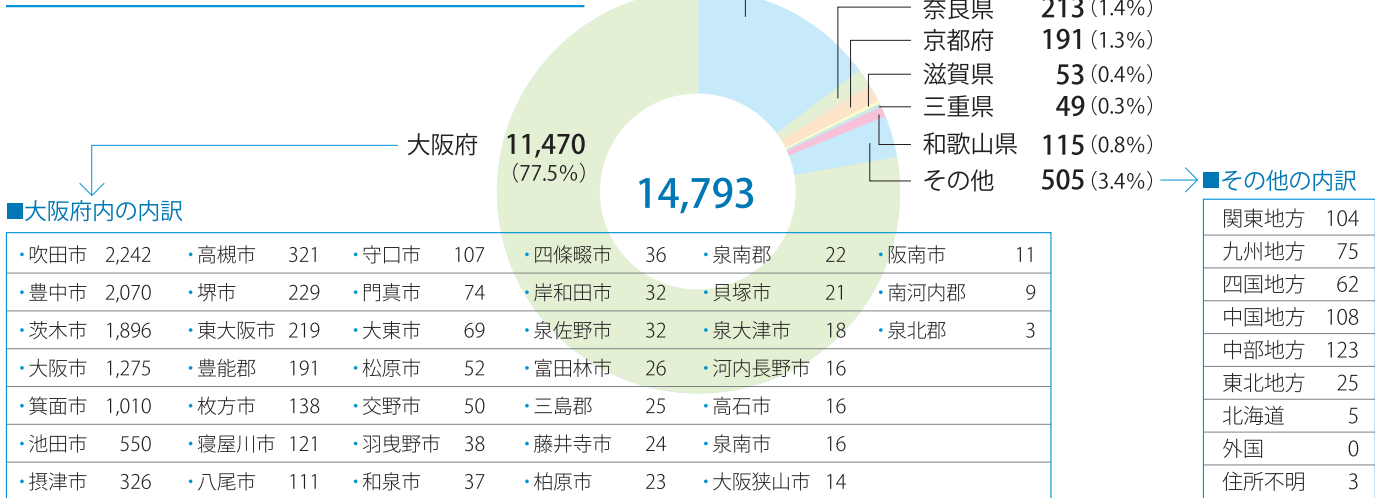
[病理業務件数] (単位：件)



[リハビリテーション実施単位数]



[地域別入院患者数] (単位：人)



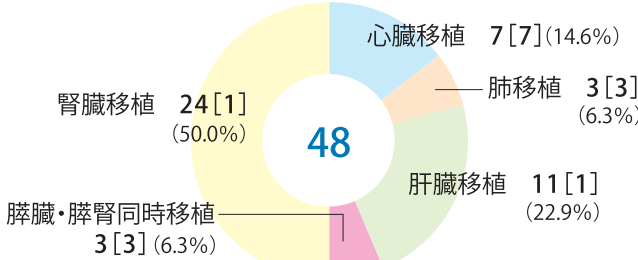
[治験件数] (単位：件)

	総件数	総症例数
■医薬品	223	1,081
■医療機器	18	242
総 計	*241	*1,323

※医師主導治験28件242症例を含む

[移植件数] (単位：件)

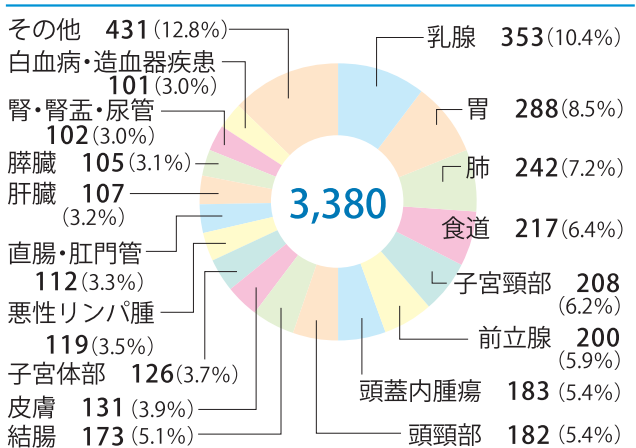
①臓器移植件数 ※[]内は、脳死、心停止下臓器移植件数



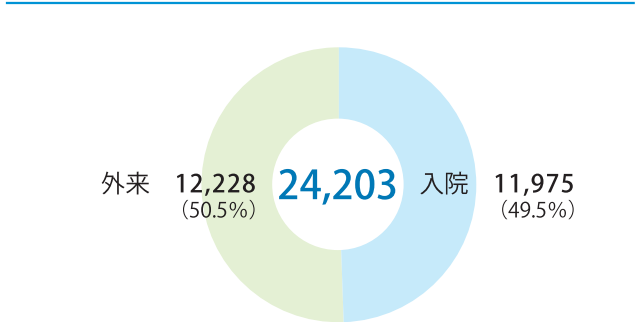
②造血幹細胞移植件数

区 分	成人	小児
■血縁者間移植	9	0
■非血縁者間移植	18	4
・骨髄バンク	17	2
・臍帯血	1	2
■自家移植	7	0
合 計	34	4

[院内がん登録件数] ※2014年 (単位：件)



[入院、外来抗がん剤調製件数] (単位：件)



[ドクターヘリ出動件数] 150件

[分娩件数] 583件

[血液浄化療法施行件数] 3,469件

[医療機関の承認]

●臨床修練指定病院	●大阪府肝炎専門医療機関
●医療法第7条第1項による開設許可（承認）	●覚せい剤取締法による国の開設する覚せい剤施用機関
●健康保健法による（特定承認）保険医療機関	●障害者自立支援法による更生医療
●生活保護法による医療機関	●障害者自立支援法による育成医療
●労働者災害補償保険法による医療機関	●障害者自立支援法による精神通院
●原爆医療法による一般医療法	●入管難民法による出入国管理及び難民認定法に基づく指定医
●原爆医療法による認定医療法	●大阪府総合周産期母子医療センター指定
●母子保健法による妊婦乳児健康診査	●医療観察法による指定通院
●母子保健法による養育医療	●大阪府肝疾患診療連携拠点病院
●戦傷病患者特別援護法による厚生医療	●地域がん診療連携拠点病院
●特定機能病院の名称の使用承認	●児童福祉法第19条の9第1項の規定による指定小児慢性特定疾病医療機関
●エイズ治療拠点病院	●難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第1項の規定による指定医療機関
●大阪府災害拠点病院	●臨床教授等指定病院
●感染症予防法による指定届出機関（基幹定点）	●医療法上の臨床研究中核病院
●大阪府三次救急医療機関	

※太字は大阪府による承認指定

[先進医療]

- 前眼部三次元画像解析
- 急性心筋梗塞に対するエポエチンベータ投与療法
急性心筋梗塞（再灌流療法の成功したものに限る）
- パクリタキセル静脈内投与（一週間に一回投与するものに限る）及びカルボプラチン腹腔内投与（三週間に一回投与するものに限る）の併用療法
上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん
- 術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法　原発性乳がん（エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る）
- 経カテーテル大動脈弁植込み術　弁尖の硬化変性に起因する重度大動脈弁狭窄症（慢性維持透析を行っている患者に係るものに限る）
- ベベルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法
閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病（血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る）
- 腹腔鏡下広汎子宮全摘術
- 上肢カッピングガイド及び上肢カスタムメイドプレートを用いた上肢骨変形矯正術　骨端線障害若しくは先天奇形に起因する上肢骨（長管骨に限る。以下この号において同じ）の変形又は上肢骨の変形治癒骨折（一上肢に二以上の骨変形を有する者に係るものを除く）
- FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断
不明熱（画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る）
- コラーゲン半月板補填材を用いた半月板修復療法　半月板損傷（関節鏡検査により半月板の欠損を有すると診断された患者に係るものに限る）
- 周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法　非小細胞肺癌（CT撮影により非浸潤がんと診断されたものを除く）
- 11C標識メチオニンをを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断　頭頸部腫瘍（原発性若しくは転移性脳腫瘍（放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る）又は上咽頭、頭蓋骨その他脳に近接する臓器に発生する腫瘍（放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る）であり、かつ、再発が疑われるものに限る）
- 角膜ジストロフィーの遺伝子解析
- 内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術
根治切除が可能な胃がん（ステージⅠ又はⅡであって、内視鏡による検査の所見で内視鏡的胃粘膜切除術の対象とならないと判断されたものに限る）
- 自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療
胸髄損傷（損傷後十二月以上経過してもなお下肢が完全な運動麻痺（米国脊髄損傷教会によるAISがAである患者に係るものに限る）を呈するものに限る）

[収入と支出]（2015年度）※受託研究等外部資金及び施設費は除く

収入（単位：千円）		支出（単位：千円）	
区　分	金　額	区　分	金　額
運営費交付金	4,348,389	人件費	14,016,356
附属病院収入	36,172,271	医療費	16,623,190
その他収入	1,233,400	債務償還経費	3,656,974
		業務費	7,457,540
合　計	41,754,060	合　計	41,754,060

[受託研究等外部資金及び施設費]

外部資金受入額（単位：千円）		
区 分		金 額
受託研究等収入	受託研究	139,533
	治験	580,006
	共同研究	32,372
受託事業等収入	受託実習生	2,323
	病院研修生	3,855
	その他	5,116
	共同事業	19,800
寄付金収入		65,581
補助金等収入		1,145,214
合 計		1,993,800

施設費（単位：千円）		
区 分		金 額
施設整備	オンコロジーセンター棟	152,419
	血液浄化システム	170,777
設備整備	超音波診断装置	80,000
	手術生体情報管理システム	270,000
	集中治療支援システム	125,420
	コンピュータ断層撮影装置システム	237,600
	病理診断支援システム	81,000
	感染症免疫検査支援システム	113,334
	IVR支援X線診断装置システム	142,344
合 計		1,372,894

トランスレーショナルリサーチの推進

新しい医療を開発し、臨床の場で試用してその有効性と安全性を確認し、日常医療へ応用していくトランスレーショナルリサーチ（TR）を実践推進していきます。

- TRの実施件数（2015年度）
- 新規TR実施件数：20件
- 臨床研究新規許可件数：5件

診療と教育・研究のグローバル化

本院では2013年4月に、外国人診療や外国人医療研修に関連する様々な業務やコーディネートを一貫して行う部署として、国際医療センターを設置し、各部署と連携しながら診療と教育のグローバル化を目指して下記の事業に取り組んでいます。

| インバウンド基盤整備

- 海外からの患者受入れ体制の整備
- 海外からの医療研修受入れの推進
- 関西での国際医療ネットワーク形成

| アウトバウンド

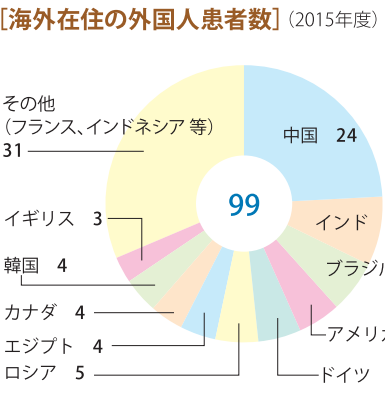
- 世界市場への日本の医薬品・医療機器の展開
- 国際共同治験・共同研究の推進
- 日本の医療システムの海外進出

| 国際医療教育・研究

- 大阪大学内外の研究・教育施設との協力による国際医療教育・研究の推進

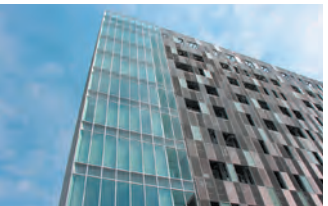
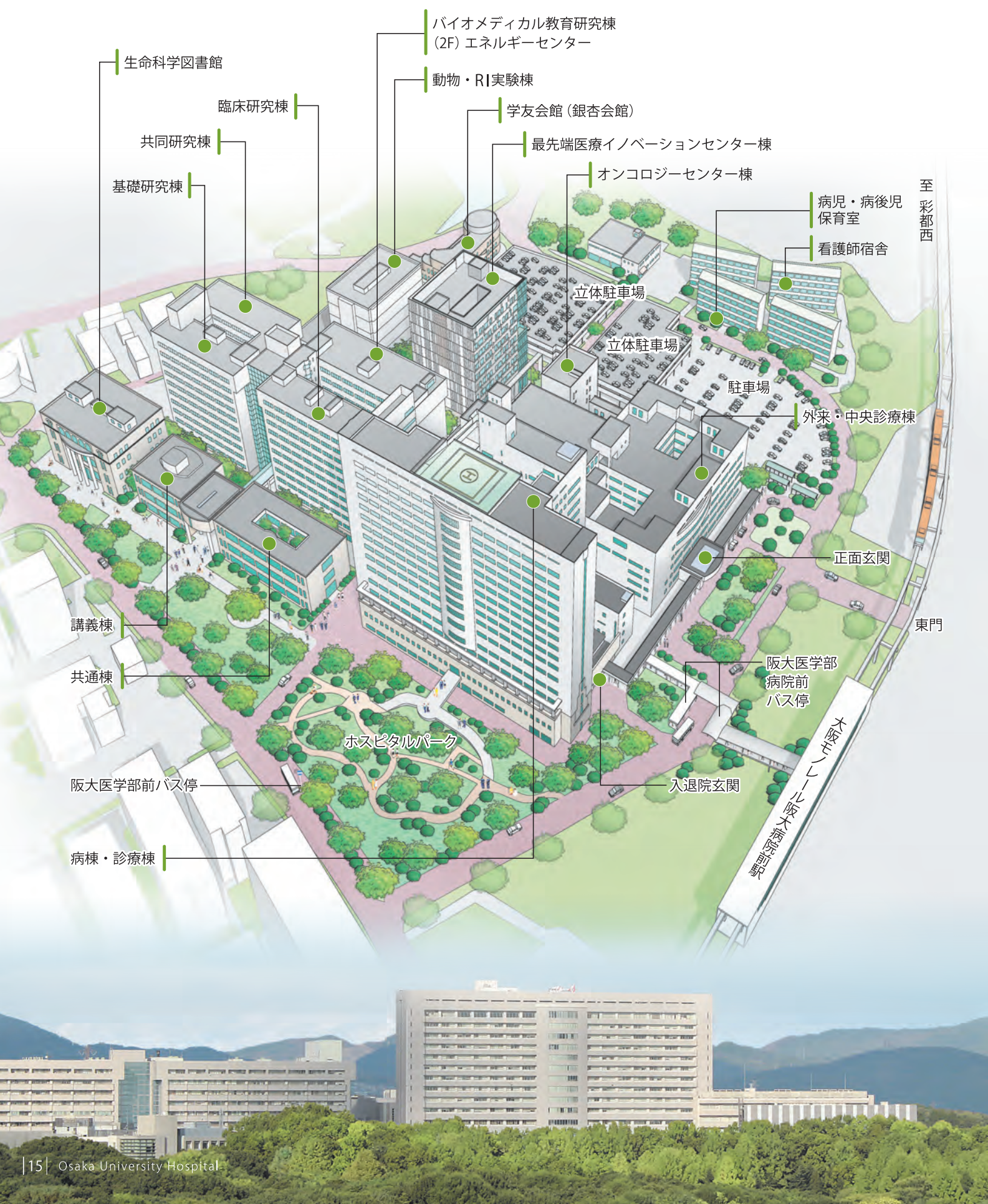
| 国際機能評価

- 国際病院評価機構（JCI）受審に向けた準備。
- 外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）を受審し、認証された。（2016年3月）



構内建物配置図／階別配置図・病床数

Buildings Layout／Building Directory and Number of Beds



[病棟・診療棟 (病床数 1,086床) ※フェーズⅠ病床(10床)を含む]

西病棟			東病棟	
14階	レストラン、休憩所、会議室、中央クオリティマネジメント部			
13階	脳神経外科	49床	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	51床
12階	泌尿器科	48床	内分泌・代謝内科、免疫・アレルギー内科	53床
11階	[消化器センター] 消化器外科	50床	[消化器センター] 消化器内科	50床
10階	[消化器センター] 消化器外科、共通	53床	血液・腫瘍内科、化学療法 (主に消化器外科)	52床
9階	[ハートセンター] 心血管外科、CVCU	49床	[ハートセンター] 循環器内科、CCU	50床
8階	乳腺・内分泌外科、皮膚科、形成外科	50床	神経内科・脳卒中科、SCU、老年・高血圧内科、皮膚科	50床
7階	眼科	53床	[呼吸器センター] 呼吸器内科、呼吸器外科	49床
6階	[小児医療センター] 小児外科、心血管外科、整形外科、外科共通	40床	[小児医療センター] 小児科	48床
5階	整形外科	53床	産科・婦人科	50床
4階	集中治療部 (ICU)	10床	集中治療部 (ICU)	15床
3階	[総合周産期母子医療センター] 周産期母子医療、MFICU、NICU	38床	腎臓内科、放射線科 (RI病室)、麻酔科、内科共通	43床
2階	看護部、血液浄化部		神経科・精神科	52床
1階	リハビリテーション部、郵便局、ローソン、食堂、理容室等		高度救命救急センター 医療情報部、入退院センター、守衛室、防災センター	20床
B1階	病理部、栄養管理室、厨房、霊安室		薬剤部、医事課事務室	

[外来・中央診療棟]

	中央診療施設等	外 来	その他
4階	手術部、集中治療部、 移植医療部、総合診療部、 感染制御部、 卒後教育開発センター、 看護部キャリア開発センター	フェーズⅠ病床 10床	ボランティア室、 院内学級職員室、 シミュレーション室、 医事課事務室
3階	材料部、病理部、輸血部、 MEサービス部、 前立腺センター、 麻酔科術前外来	泌尿器科、産科・婦人科、 神経科・精神科、外科、 耳鼻咽喉科・頭頸部外科、 皮膚科、形成外科	患者図書コーナー、相談室、 治験コーナー・臨床研究相談窓口
2階	臨床検査部、 内視鏡センター	内科西、内科東、 糖尿病ケア・看護、麻酔科、 小児科、小児外科、 脳神経外科	授乳室
1階	放射線部、 保健医療福祉ネットワーク部、 薬剤部	眼科、整形外科、 リハビリテーション科、 総合診療科、漢方、 補完医療、感染制御、 セカンドオピニオン	総合案内、外来受付カウンター、 予約変更センター、ATM、 診断書等受付窓口、 院外処方せんFAX送信コーナー、 患者相談室、栄養相談室、 相談室、医事課事務室
B1階	放射線部、サプライセンター、 遺伝子診療部、放射線治療部	放射線科、緩和ケア	歯科治療室、中央病歴室

[医学部・同附属病院共通棟]

3階	医学部長室、病院長室、事務部長室 会議室 等
2階	病院 総務課事務室 病院 管理課事務室
1階	病院 管理課事務室 医学部 事務室

[オンコロジーセンター棟]

5階	がん相談部門 薬剤部 (オンコロジーセンター室)
4階	化学療法部門
3階	化学療法部門
2階	化学療法部門
1階	受付 診察部門 採血・検査部門
L階	スタッフエリア 設備部門

[最先端医療イノベーションセンター棟]

4階	未来医療開発部 病院 教育研究支援課事務室
----	--------------------------

※経済産業省の平成22年度先端技術実証・評価設備整備費補助金(技術の橋渡し拠点事業)により、大阪大学医学系研究科に設立された、産学官連携の研究拠点(地上9階・地下1階建て)

2015年度（2015年4月～2016年3月）の動き

Topics

Topics 1

日本初、臨床研究中核病院に認定されました。

→ 国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う。

2015年7月29日、第45回社会保障審議会医療分科会が行われ、審議の結果、本院は8月7日付けで医療法上の「臨床研究中核病院」として日本で初めて承認されました。（2016年4月1日現在全国で8病院が認定。）

これにより本院は、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う病院として、革新的な日本発の医薬品・医療機器の開発に必要な、質の高い臨床研究を推進していくこととなりました。

今後、他の医療機関の臨床研究の実施をサポートし、また、共同研究を行う場合にあっては中核となって臨床研究を実施することで、他の医療機関における臨床研究の質の向上が図られます。

また、臨床研究に参加を希望する方は質の高い臨床研究を行う病院を把握してアクセスできるため、病院は集約された参加者の診療データを十分な管理体制下で収集することができます。本院は、以上のような集約的かつ効率的で質の高い臨床研究を推進し、次世代のより良質な医療の提供を可能にします。



[左：臨床研究中核病院承認通知書]
[右：認定証を持つ金倉護病院長(当時)と澤芳樹医学系研究科長]

Topics 2

オンコロジーセンター棟オープン。

→ より安全な化学療法を目指し、関連部署が集結。

がんに対する化学療法の進歩はめざましく、化学療法による治療を受けておられる患者さんが激増しています。本院は、患者さんが社会生活を営みながら、がん治療を続けられる「外来化学療法室」を平成15年に設置し、一日約40名を診療してきました。しかしスペースの関係で、化学療法が必要な全ての患者さんに対応できず、また検査室での採血から各科診療室での診察、治療に至るまでの動線も複雑で、待ち時間が長いという状況にありました。それらの問題を改善するため本院は、2015年9月7日に新しく「オンコロジーセンター棟」を開設しました。外来棟内を複雑に移動することなく、血液検査・診察・治療の全てを一つの棟内で一括して行うことで、患者さんの負担が軽減します。本院におけるがん化学療法が今よりもさらにハイボリュームかつ安全に実施され、がん診療連携拠点病院としての機能が一層強化されることが期待されます。



[オンコロジーセンター棟 外観]



[病床数が倍以上となった化学療法室]



[開放的な交流スペース]



[エントランスホール]



[オープンテラス]



[患者図書コーナー]



[正面玄関]



[病棟・診療棟外観]

The Photograph of Osaka University Hospital 写真で見る大阪大学医学部附属病院



[特定集中治療室(高機能ICU)]



[血液浄化部]



[ドクターヘリ]



[小児医療センター]



[ホスピタルパーク]



[循環器専用Angio-CT]



[入退院センター]



[手術支援ロボット ダヴィンチ]



[総合周産期母子医療センター 分娩室]



[オンコロジーセンター棟抗がん剤調製室]



[治験コーナー・臨床研究相談窓口]